

令和4年度 大阪市立生涯学習センター運営評価委員会 要旨

1 日時 令和4年7月11日（火）午前10時00分～12時00分

2 場所 総合生涯学習センター 第1研修室

3 出席者

【委員】赤尾勝己委員（座長）、出相泰裕委員、岩槻知也委員、西本聡子委員、
嶋津敏治委員、有富恵子委員

【事務局】総合生涯学習センター：渡部所長、川崎副所長、竹内企画推進課長、
糸井事業主幹、管理係長、企画推進係長、
連携推進係長、企画推進課主任

阿倍野市民学習センター：樋川所長 難波市民学習センター：高貫所長

【オブザーバー】大阪市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習担当係長

4 次第

(1) 開会

(2) 出席者紹介

(3) 案件

① 生涯学習センターの新型コロナウイルス感染症への対応について

② 生涯学習センター事業の評価について

(4) その他

(5) 閉会

5 会議概要（主な発言等） *要旨を表すため一部省略、言い換え等を実施

◆案件（1）生涯学習センターの新型コロナウイルス感染症への対応について

（事務局）4月のまん延防止等重点措置に伴い、開館時間が短縮され通常 21 時 30 分までのところ、20 時までには制限された。続けて緊急事態宣言が出され、4/25 から 6/20 までには2か月、臨時休館となり、これは令和2年度に比べて約2倍の期間となった。6月下旬からは 21 時までという開館時間短縮の期間が 10/24 まで続いた。抽選会については、電話受付に変更するか、あるいは、実施の場合も、休館日に3密を避け、待機場所を広く取る形式で実施してきた。

◆案件（2）生涯学習センター事業の評価について

分野1：情報収集・提供と学習相談

（委員）学習相談について、具体的にどういった内容があったのか、あと、LINE 登録件数の

カウントについて、新規に 1,116 件なのか 520 件に約 600 件の上乗せなのかを教えてください。

(事務局)LINE について、1,116 件は現在の登録件数なので、上乗せが 600 件程度である。学習相談については、抽選会と事業について実施の有無の問い合わせが多かった。

(委員) LINE 登録者の年齢層がわかれば教えてください。もしかすると若い人が多いのか。やさしいにほんご対応について、具体的にどんな対応をしていくのか。

(事務局)年齢層についてはいま手元に資料がないので、後日回答する。

(*後日回答：登録者は 50 歳以上の方が多くを占めている。)

やさしいにほんごについては HP で、必要とされている方に届けられるような形で対応していきたい。

(委員)やさしいにほんごというのは、日本語をよりわかりやすい表現にかえていくということ。たとえばチラシにふりがなをふるという取り組みもある。結構大変な作業と思うがそういうことも対応としてはありうるのかなと思う。

(委員)フェイスブックのフォロー数があまり増えていないのは、フェイスブック自体を世間がやらなくなったからか、フェイスブックの扱いはどうしていくのか。

(事務局)現在、事業の実施報告などで活用しているので、当面は引き続き継続していく予定にしている。

(委員)感想だが、LINE の友達が倍増しているのは素晴らしい。コンテンツが良くないと思ったら容易に外せるが、倍増しているのは充実したコンテンツ、利用者が欲しい情報が的確に発信されている結果だと思う。

(委員)LINE の登録件数については今時だなという感じがしたが、年配の方も多いとなると、LINE を登録することに対してのフォローはどうしているのか。友だち登録の仕方が分からないとか、実際にやっていないという方もいらっしゃると思うので、LINE の利便性や登録するとういう形で情報が入ってくるという周知はしているか。

(事務局)現在、個別対応はしていないが、チラシに掲載しているQRコードからアクセスしていただくと該当のページが開く。ご意見を参考に今後検討していきたい。

分野2：現代的・社会的課題に関する学習機会の提供

(委員)オンラインの場合、他の地域の受講者をどうするか、今年度はそういう人が結構いたのか、センターとしての見解はどうか。他地域の公民館では市の税金で運営されているのに、税金を払っていない人たちにサービスをしているという部分で問題となっているところもある。

あと、今年のオンラインに関しての受講者評価の印象的だったものを紹介してほしい。そして、令和4年度も引き続き、オンライン講座を実施するということだが、さらに拡大していこうという方針なのか。

(事務局)オンラインの他地域からの参加ということについて、これは講座による。関東にある大学の先生の講座では、先生自身にも SNS で拡散していただいたので、関東の人が多く受講している傾向があった。それ以外の講座では、多少おられるという程度だった。講師が活動拠点を置いておられるところの受講者が多いというのがセンターの印象である。

そして必ずしもオンラインを増やすのがいいとは思っておらず、講座の目的を伝えられるのが、どの手法が一番適切なのか、令和3年度からセンターでも考えており、適宜それぞれの講座に合わせて実施している。あと、受講者の評価は在宅ワークが増えてきて、以前の夜間講座に来ていた若い人がオンラインに流れ、ライフスタイルの変化で学び方の変化も少しあったという印象である。ズームによる受講者向けのアンケートで「オンライン受講という方法により参加しやすくなったか」という項目を新しく作ったが、99.1%という高い数字だった。

(委員)では、他地域の方が HP やネットを通じて情報を得て、それで受けに来ている状況ではないということか。

(事務局)目を見張るほど参加されている印象はない。

(委員)では、全然違う地域の人々が思わぬところで、いろいろな他地域の人たちと学び合っていて面白いという状況ではないのか。

(事務局)そこまでの状況ではない。

(委員)では、令和4年度は事業・講座の趣旨によってオンラインがふさわしいものはオンラインで行うという事で、同水準くらいと考えてよいか。

(事務局) おおよそは同水準ぐらいになると思う。

(委員)今年度は受講者アンケートで子育てや、引きこもりで外に出られないけれど、こういうのがあって助かったなどというコメントはまだないか。

(事務局)今年度はまだそれほどオンライン事業が始まっておらず、まだいただいていない。

(委員)オンライン講座について、ライブ配信ではなくて録画配信か。

(事務局)それは講座毎で違っており、ライブ配信と対面講座を同時にしている講座や人気講座は後日期間限定のアーカイブ配信をしたということもある。今のところ誰もが自由に見られるという配信はしておらず事前申込制としている。ただし、総合フェスタとインストラクターバンクの動画は、だれでもいつでも見られる配信方法を実施した。

(委員)対面での講座は外に出て、直接対面することで感じることもあり、オンラインは受けやすくいいがどうしても一方通行になりがち。ライブ配信ならチャットなどで参加できたりするので、そういう講座が増えればいろいろな幅が広がるのかと思った。

(事務局)どちらかというチャットなどでいろいろと先生達と質問のやり取りができるという方が双方向になるのかなと思っている。しかし、対面講座と生配信併用ではライブで見ている人は質問しにくい、先生が質問を拾いにくいという面があるので、どういう方法が最適かこれから見つけていきたい。

(委員)我々の場合、ブレイクアウトルームという機能で、受講者同士がしゃべられるようにして、交流を深めようという事をしているが、センターではやっていないのか。

(事務局)研修関係では実施している事業もあるが、市民向けの講座では時間配分もあり、積極的には取り入れていない。

(委員)では、ライブであっても市民同士の交流ということは、今の段階では進んでいないということか。

(事務局)生涯学習推進員研修では実施している。

(委員)オンラインの場合、他地域からも参加されるという事で、大阪市以外の方が受けられていることを面白いなと思った。それが対面でやっている場合は居住地域が市民に限るということになるのか。

(事務局)いちょうカレッジなどは市内在住在勤と限定しているが、他の講座では限定して

いない。

(委員) その方が望ましいと私も思っている。あと、オンラインの 98 講座というのは全体の何%くらいか。

(事務局) オンライン講座の割合は、昨年度中止の事業を含めない事業数が 511 あり、約 2 割くらいである。

(委員) 日本語教室受講者の動向として、どのような国から来ているか。

(事務局) 令和 3 年度は入国制限があったということも原因かと思うが、前の年に比べて国の数は限られており、ほぼ中国、そして韓国、残り 1 人、2 人のレベルでベトナム、タイ、ネパール。令和 4 年度からは明らかに動向が変化し、ベトナムが増えている。技能実習生及びその人たちに呼び寄せられた家族と聞いている。

分野 3：人材養成・研修

(委員) 生涯学習推進員について伺いたい。先日の会議で大阪市が他の指定都市に、推進員を含めて特定の人に負担がかかりすぎていて、どう裾野を広げていっているのかということを知っていた。そういった中で今年は 37 人が推進員養成講座を受けているが、これは例年に比べてどうだったのか。

2 つ目は同じ会議で推進員の悩みで挙げられたのが、他の所が何をしているのかよくわからないという声があった。ただ、センターでは、交流を目的としたエルキューブをやっている。推進員の交流に関してうまく機能していないという事があるのか、やっても参加者が少ないとか推進員にも悩みが出てきているので、これに対してどうなっているのか教えて欲しい。

(事務局) 1 点目の推進員の数だが、手元に数字がないので確認したい。

(*後日回答: コロナ禍前に比べると、推進員養成講座受講者数は減少している。)

2 点目は、今、コロナ禍で動画研修になっているが、それ以前は多彩なプログラムを用意しており交流もやっていた。コロナが落ち着いたら以前のようにセンターに足を運んでいただき、いろいろな地域の人たちとの活動実践交流などを再開していきたい。

(委員) 推進員は昨年 25 周年を迎え、メンバーを見ると最初から続けている人が半分位いる。推進員になるきっかけは P T A 役員が学校から声がかかってということだったが、今は声をかけてもなかなか推進員の方に来てもらえない状況。

エルキューブは、参加してみると有意義な話で、得るものはすごくあるが、そこに行くまでのステップが踏めない。オンライン利用についてはハードルが低くなり良かつ

たと思う。市ルームふえすていばるの作品展示をセンターから動画配信してもらったが、何か発信することによって推進員に興味を持ってもらい、声がけて推進員になってくれる人を増やすことが推進員の課題だと思う。

はぐくみネットコーディネーターは各団体をコーディネートするというのが仕事だが、役割を地域の人に知ってもらえるような取り組みをしていきたいと自分も思うし、皆さんにも協力してほしい。

(委員)自分もPTA副会長をしていたので、推進員にもはぐくみ(コーディネーター)にも入っている。副会長をしたらやるんだよという感じで。自分としては、はぐくみはPTAのOB会という感覚だった。自分たちのはぐくみの活動は、学校の運営、PTA及び子ども会活動のサポートという形だ。メンバーの中にもはぐくみって何したらいいの?という感じがある。推進員やはぐくみもやってみると勉強になることもあり、視野が広がったりもするので、さらに保護者相互のコミュニティなども広がっていけるのではと感じた。

(委員)先ほどはぐくみネットの調査をしているとのことだったが、この分析結果というのは今のところどうか。もし結果から傾向などわかっていることがあれば教えて欲しい。

もう一つは、識字・日本語指導者養成事業の参加者アンケートで、「マイノリティではなくマジョリティ側から人権のお話を聞いたのは初めてで、ハッとさせられた」というのがあるが、どんな話だったのか。

(事務局)はぐくみネットの調査について、昨年度のアンケートに加えて今年度は5地域ほどインタビューを予定している。各地域でどういったことをしているか、うまくいっている要因や課題等、生の声をコーディネーター、学校管理職、区役所の3者に向け実施し、それらをまとめて研究報告書とする。アンケートの分析結果ということだが、はぐくみネットは教育委員会がコーディネーターの委嘱をして、区役所が事務的なことを、総合は研修で関わるということになっており、いろいろな関わり方がありそれぞれ状況がつかみづらいということになっているようだ。そういうことも現状ということで報告したい。アンケート結果としては、コーディネーター何年目かという質問に、2年以内が1/5位、16年以上、出来た頃からやっている人が2割ほどいた。きっかけはPTA、推進員が中心で、参加することによっていろいろなことが見えてきて、いろいろなところで活躍する場が広がっている人もいるという事がわかってきている。コロナ禍中は学校内での活動はほとんどできなかった。情報誌の作成や見守り活動など学校の外での活動が中心になっている。意義としては、地域の事がよく見えるようになった、子どもの顔がみえるようになった、いろんな人と交流ができたという人もいれば、何をやっているかよくわからない、地域の人から十分に理解されていない、という人もいた。人材の後継者が見つからないという意見もあった。

(事務局)次に、「マジョリティ側からの人権のお話」の件について、こちらは今年の3月に識字・日本語ボランティアのためのステップアップ講座受講者の感想である。すでに地域ボランティアとして活動している人向けの講座であり、少し発展的な内容とした。タイトルとしては、「教室がめざす多様性が尊重された場とは～特権概念からマジョリティのあり方を考える～」で、内容としては、特権というのが男性と女性、黒人と白人、障がいのあるなし、学歴、言語を習得しているか否か、さらに複合的なもの、たとえば女性であり黒人で障害をもっている人がどういう立場なのかという事を、具体的に映像をみたり、ワークショップをしたりしながら、自分が特権を持っていると気づけないことがたくさんあるということを感じさせてくれる内容だった。自分が特権を持っている場合、ない人がいるという事に関して無自覚であることの怖さを認識されたという感想だったのかと思う。

(委員)非常に重要なことと思う。

分野4：企画開発とネットワーク

(委員)大阪府内地域連携プラットフォームというのを、大阪府、大阪市、大阪市商工会議所、私ども4者でネットワークを組んでいる。地域が中心となったリカレント教育を推進していこうという話になっているが、まず第一歩として大学側にリカレント教育を自大学でどれほど行っているか、連携の中でこういったプログラムを展開していきたいのかという調査を7月に予定している。調査結果が出次第、共有させてもらい具体的にどういう形で展開できるのか相談したい。対象としてはリタイアした人ではなく、現役の社会人の学び直しをしている人をターゲットにしている。

(委員)リカレント教育というのは、概念が人によって多様になっており、各自がバラバラのイメージで答えてしまうといけないので、それさえ気をつけてもらえば非常に価値のある調査だと思う。

(委員)リカレント教育をどのように定義しているのか。

(委員)先ほど紹介した産官学連携のそれぞれが思うリカレント教育の在り方というところを共有している段階である。そこで出てきたのがリタイアした人ではなく、現役社会人に学んでもらうのが必要だという事で、それを軸に大学の取り組みとしてどのように実施しているのかを把握しながら、さらには企業にも力添えしてもらい、どういう人材を育てていきたいのか、どういう人材が必要なのかというところをすり合わせていこうと考えている。

分野5：区や地域における生涯学習の支援（「教育コミュニティ」支援）

(委員)他市の中学校で出前講座をしたということだが、この中学校はどうやって知ったのか。

(事務局)防災のプログラムについては、ホームページとかいろいろなところで周知しており、中学校はセンターのホームページで見たとのことだ。

(委員)社会教育でやっていかなければならない大きな課題、社会に開かれた教育課程ということで大事な部分なので、ぜひこれを育ててほしい。

難波市民学習センターの1日体験教室で「とても楽しかった」とかそういうコメントが書いてあるのは、具体的にどのような内容か。

(事務局)センターまつりと同時開催している生涯学習ルームの体験教室、及びインストラクターバンク登録者による体験教室を3月末に実施しており、その際の感想である。

分野6：利用促進とサービス向上

(委員)評価指標で、事業①の「貸室利用率・各館 70%以上」というのは、これまでと同じか。

(事務局)これは大阪市との年度協定の中に記載されている目標である。見直しも必要かという事で協議もしたが、コロナ禍という特別な事情があるので、一旦保留となっている。

(委員)というのも、これでは厳しすぎる数値なのかなと思う。閉館を余儀なくされた中、令和2年度は△となっているが、3年度は維持というより若干高くなっているのに△は厳しい評価なのかなという感想である。

座長まとめ

分野1では、LINEの登録件数が増えているということだが、その年齢層はどうか、この年齢格差とかそういった問題がおそらくあるかと思うので、今後より詳しく見てほしい。

分野2について、教育的に大きな問題を抱えているが、オンライン事業の方法が6パターンあるということで、これは大変よいことだと思うが、今後、どのような内容にはどういう実施方法が望ましいのか、研究を進めてほしい。

分野3について、「はぐくみネットコーディネーターが何をしたらいいのかわからない」という声は重く受け止めるべきこと。この声にどう応えていくのか今後考えて欲しい。